



海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。

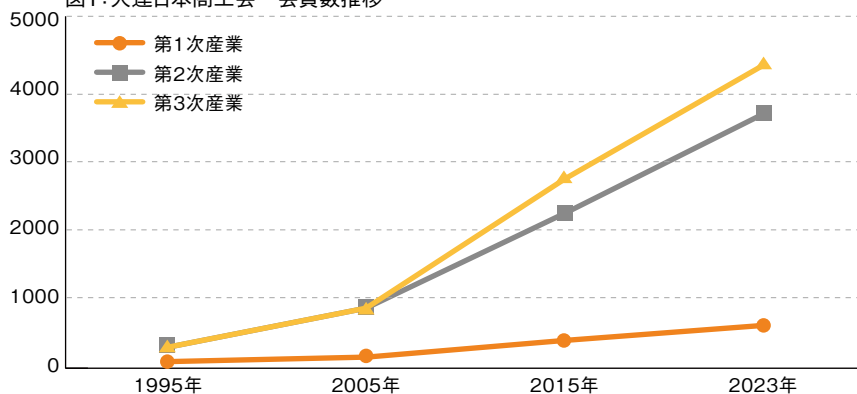
今回、大連駐在員事務所の宮下所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1

現地の状況について
教えてください

A 1995年の設立から30年、福岡銀行大連駐在員事務所はお客さまの中国進出をサポートしながら共に歩んで参りました。この節目の年に当たり、中国・大連という都市がどのような変化を遂げて来

図1：大連日本商工会 会員数推移



(出所：大連日本商工会提供データより筆者作成)

写真1：進出当時の写真



進出当初の大連（開発区）：高層ビルはまだ少なく、開発が各所で進行していた。（1995年11月6日）

写真2：現在の写真



現在の大連（開発区）：高層ビルが立ち並び、環境規制の強化により大気環境も大きく改善された。

たのかを年代別に振り返ります。

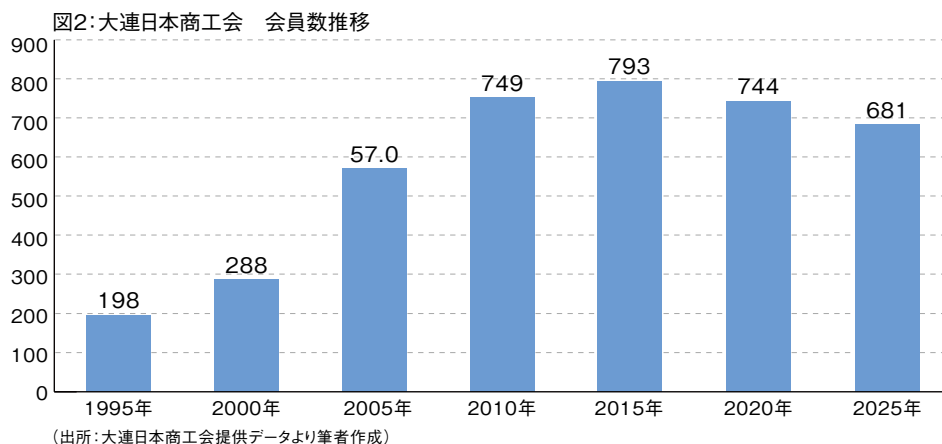
【1995年～2005年
製造業進出黄金時代】

当駐在員事務所設立当時の大連市は経済技術開発区を中心にインフラ整備が進み、外資系企業受入の黎明期にありました。①豊富で安価な労働力、②九州との物理的な近さと不凍港を持つ物流上の利便性、③良好な対日感情等の特色を背景に、製造業を中心とした多くの日本企業が進

出を始めました（図1）。自動車部品や電子機器、金属加工などの工場が相次いで設立され、労働集約型製造業の集積地として大連の地位が確立されていた時代でした。（写真1、2）

【2005年～2015年
IT関連事業の発展と
都市機能高度化の時代】

製造業の集積が成熟期に入中、大連市はソフトウェア産業やBPO（業務委託）を次なる成長



の柱に据えました。大連ソフトウェアパークや高新園區の様なハイテク産業集積地の整備が進み、日本語を使えるIT人材が豊富にいたことから、開発/コールセンタ業務のアウトソース先として、日系IT関連企業が続々と

進出してきました。その進出ラッシュに併せて、地下鉄の開通や都市高速の整備等、都市機能の高度化が急速に進んだ時代でもありました。

【2015年～2025年 産業構造転換の時代】

近年は人件費の上昇や米中対立などの地政学的リスクを背景に、日系を含む外資系企業の撤退や再編が徐々に進行しています(図2)。2020年のコロナ禍もその動きを後押しするかたちとなりましたが、その背景には、現地中国企業の急成長と競争力の向上に加え、日本企業が中国市場特有の急速なデジタル化やネット販売といった変化に十分適応できなかったという側面があることも見逃せません。中国政府は現在、高付加価値産業への構造転換やスマート化を推進し、大連市を「中国東北部再興のエンジン」と位置づけています。次なる10年間は、大連市の真価を目の当たりにする時代になるかも知れません。

Question 2

現地企業の声を聞かせて下さい

A 2004年に大連市へ進出した株式会社ナッツ(キャンピングカー製造販売)の現地法人、拿賜(大連)特殊車輛製造有限公司の和田総経理にお話を伺いました。

和田総経理… 弊社はキャンピングカーの完成車輸出を目指し、当時の仕入れ先があった大連へ進出しました。当時の大連は、山を切り開いて多くの工場やマンションが建設され、活気に満ち溢れていました。インフラも整備途中で大変な苦労しましたが、人材募集の張り紙一枚で50人以上が面接に並ぶほど、現地の期待と熱気を肌で感じたのを今でも覚えています。

大連は日本企業と長年にわたる技術蓄積を重ねてきた背景があり、製造現場には高い技能を持つ人材が多く揃っています。弊社大連工場では、この工場で作れないハイグレード帯の製品を開

発・製造しています。さらに、親日的な風土や日本語話者の多さ(図3)、他地域にはない大きな魅力です。今後はこうした強みを生かし、単なる製造工場という考えを改め、技術と信頼に裏打ちされた、価値あるモノづくりで持続可能なビジネスを築いていくことが重要です。(写真3、4)

図3:人口100万人あたりのN1受験者数(2024年)

※N1:日本語能力試験(JLPT)の最上級レベルで、高度な日本語理解力が求められる試験。

順位	都市	人口100万人あたりの受験者数(人)	常住人口(万人)
1	大連	653	754
2	広州	652	1,898
3	上海	388	2,480
4	杭州	286	1,262
5	長沙	281	1,062
6	武漢	275	1,381
7	北京	270	2,183
8	西安	270	1,317
9	南京	223	958
10	天津	170	1,364

(「日本語能力試験」Webサイト、JETRO提供データを基に筆者作成)

写真3: ナッツ様作業風景



手作業での工程には、現地従業員の熟練した技が光る。

写真4: ナッツ様出荷風景



入念な品質確認を経て、細心の注意を払い出荷される完成車体

初代所長よりメッセージ

1989年6月の天安門事件から2年後の91年7月に北京の大学への語学留学をきっかけに中国事業に携わり、その後1995年3月に福岡銀行にとって中国大陸初の上海駐在員事務所をおよそ1年半かけて開設致しました。

同時期に大連にも事務所開設する計画があり、上海事務所勤務の傍ら大連市政府や北京の人民銀行へ何度も足を運びながら1年がかりで認可を取得し、95年11月に大陸で2番目の大連駐在員事務所を開設致しました。

当時は鄧小平が1992年に「武漢、深圳、珠海、上海」を視察し講話した所謂「南巡講話」をきっかけに改革開放の大号令が出て沿岸部を中心に開発が進んできた時期でした。

九州から大連経済開発区や経済特区へ進出する企業が増え続け、当時は事務所業務も合併会社設立や貿易の相談などで相当

多忙を極めていました。

また、福岡銀行が主導して中国初の「上海福岡県人会」設立に続き、大連でも「大連福岡県人会」を設立させましたが、30年たつた今でも脈々と活動している事を聞いて感慨深い思いです。

最近の中国を取り巻く環境は相当厳しい面もありますが、これからも福岡銀行大連事務所が九州と大連の経済・文化面での橋渡し役として活躍されますことを祈念致します。(写真5)

福岡商事株式会社

代表取締役社長 古江寿則

写真5



大連駐在員事務所 開所式のテープカット

Take a Break



所長の
ちょっとひと息

現地のおすすめや
過ごし方を
ご紹介ください

写真6



大連の冰山慧谷・熊洞街は、かつて労働集約型の重工業が集まっていた地区を再生した創意産業エリアです。長いモノづくりの歴史を経て、現在では高付加価値な製品やサービスを生み出す都市へと進化しました。歴史的な工場建築を活かした街には、アート、カフェ、スタートアップが集い、大連の産業転換と創造力を象徴する空間となっています。(写真6)